

(仮) いいね！いぬやま総合戦略 2025-2030 改定（案）

1 策定方針

（引用：第 1 回会議資料

【資料 4】次期総合戦略（(仮称)いぬやま総合戦略） 策定方針）

◎策定までの背景

- ・国では、人口減少問題の解決などに向け、平成 26 年にまち・ひと・しごと創生法を施行し、併せて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和元年には、第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、令和 2 年には、第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂版を策定しました。
- ・その後、令和 4 年には、期間中であった第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、2023 年度から 2027 年度までの 5 カ年の新たな総合戦略「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。
- ・この総合戦略では、テレワークの普及や地方移住への関心などの高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中で、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させ、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すことが基本的な考えとして示されています。
- ・こうした国の動きの中、犬山市では、国と愛知県の総合戦略を勘案し、平成 28 年に第 1 期となる最初の総合戦略となる「いいね！いぬやま総合戦略」、令和 2 年に現行の総合戦略「第 2 期いいね！いぬやま総合戦略」を策定していますが、計画期間が最終年度となる今年度、令和 7 年度からの次期総合戦略の策定を進めるものです。
- ・また、犬山市では、第 6 次犬山市総合計画策定と合わせ、令和 42 年（2060 年）を最終年とした犬山市人口ビジョンを令和 5 年 3 月に策定しています。

◎策定にあたっての基本的な考え方

現行の総合戦略である「第 2 期いいね！いぬやま総合戦略」の基本的な枠組みを維持しつつ、主に次の観点に主眼を置いて必要な見直し・強化を図ります。

- ▶ 第 6 次犬山市総合計画・犬山市人口ビジョンとの整合
- ▶ 現行の総合戦略事業の有効性・妥当性
- ▶ 犬山市の実情に即した新たな視点
- ▶ 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」・「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2023-2027（愛知県人口問題対策プラン）」を勘案した新たな視点

2 主な改定内容 []内は主な掲載ページ

- (1) 現行の人口ビジョンを活用 [P.1・2・5・7]
 令和5年3月策定の第6次犬山市総合計画に合わせて策定した犬山市人口ビジョンを活用します。
- (2) 計画期間を6年間に設定 [P.1・2]
 第6次犬山市総合計画・犬山市人口ビジョンとの整合性を図るため、計画期間を令和7年度（2025年度）から6年間の令和12年度（2030年度）までとします。
- (3) 人口減少に対する方針の見直し [P.6]
 人口減少の補完として、現行の総合戦略では、交流人口（観光・通勤・通学など）を意識したまちづくりを、新たな総合戦略では、犬山市への愛着がもてる人口を意識したまちづくりを方針として位置付けます。
- (4) 現行の計画や市政で掲げるまちの将来像や考え方を反映 [P.7・8]
 第6次犬山市総合計画のまちの将来像（下記参照）のほか、まちの「可能性と潜在力」、挑戦と「変わらないこだわり」、まちに「寄り添い、関わりを維持したくなる」といった、現行の市政における、まちの将来像や、現状に合わせた考え方を反映します。
 <第6次犬山市総合計画 まちの将来像>
 水と緑と伝統 みんなつながり みんなうるおう 豊かさ実感都市 犬山
- (5) 「目指す姿」を実現するための視点を変更 [P.11・12]
 総合戦略が「目指す姿」を実現するための6つの視点のうち、犬山市の方針として、2つの視点を変更して新たな視点を位置付けるほか、その他1つの視点については視点に対する考え方を現時点に合わせて修正します。
 変更
 削除：自治体間の連携、マッチングの促進
 ↓
 追加：デジタルの活用、多様な主体との連携・協働
- (6) 重点事業にSDGs17のゴールとの関係性を追加